

アーティスト再発見2

入場無料



「婦人像（香の像）」 制作年不詳

中尾 蔦一

なかお つたいち



「母子像（香と千勢子）」制作年不詳

知られざる日本画の俊英、博物館で初の展示

佐賀県は、これまで多くの美術家を生み出してきました。例えば岡田三郎助のように、美術界のリーダーとして活躍し全国的な知名度を誇る作家もいますが、一方でその名がほとんど知られず、またはすでに忘れ去られている作家もいます。しかし、そうした作家の中には、大変ユニークな経歴と個性を持つ人が少なくありません。

「アーティスト再発見」シリーズは、そうした「美術史の行間」にいる無名の作家たちにスポットを当てて紹介するものです。

今回はその第2弾として、日本画家中尾蔦一（なかお・つたいち 1901～37）を取り上げます。

佐賀県鹿島市古枝に生まれた中尾は、東京美術学校日本画科にすすみ、日本画家として東京の展覧会でデビューしました。帰郷後は鹿島高等女学校で図画（美術）教師をつとめながら画作に励み、俊英として将来を囑望されていましたが、病のため35歳の若さでこの世を去りました。

今回の展覧会は、御子孫の全面的な御協力により実現したもので、中尾の貴重な作品14点及び関係資料等を展示します。

洋画の話題が多い佐賀県ですが、実は少なからぬ数の日本画家が活躍をしていたことはあまり知られていません。繊細で優しいまなごしに滲ちた中尾の日本画の世界をぜひお楽しみください。



「孔雀図」制作年不詳

- 1 会 期 平成 24 年 9 月 11 日（火曜日）～11 月 8 日（木曜日）
- 2 開館時間 午前 9 時 30 分～午後 6 時
- 3 休 館 日 毎月曜日（月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館）
- 4 会 場 佐賀県立博物館 3 号展示室
- 5 観 覧 料 無料
- 6 展示資料 中尾篤一の日本画、墨画、水彩画、スケッチブック等 計 14 点
- 7 関連事業 学芸員によるギャラリートーク（参加料無料・事前予約不要）
（日時）9 月 29 日、10 月 6 日の各土曜日 各日午後 2 時から
（場所）博物館 3 号展示室



中尾篤一 なかお・つたいち 明治 34 (1901)～昭和 12 (1937)

明治 34 年佐賀県鹿島市古枝に生まれる。大正 9 年県立鹿島中学校卒業。鹿島中では図画を篠崎貞五郎（久留米工業学校出身）に学んだ。

卒業直後の大正 10 年に鹿島尋常高等小学校準教員となるが、翌年退職し上京、東京美術学校日本画科本科に入学、川合玉堂に学ぶ。大正 15 年同校卒業。その年の 5 月に開催された「聖徳太子奉讃美術展第一回展」に、昭和 3 年「東台邦画会」に出品する。昭和 4 年郷里に戻り、同年 5 月より県立鹿島高等女学校の教諭心得となる。教職のかたわら、拝石、拝泉、光林などと号し画業を積んだが、昭和 12 年 9 月郷里にて没した。

（アーティスト再発見 2 中尾篤一） 出品作品

※作品は全て個人蔵

No.	作品名	制作年代	材 質
1	婦人像 (香の像)	制作年不詳	岩絵具・絹
2	母子像 (香と千勢子)	昭和 3 (1928)	岩絵具・絹
3	紅葉図	大正 15 (1926)	絹本着色
4	風景 (琴路岳)	大正 14 (1925)	絹本着色
5	松図	昭和 2 (1927)	紙本墨画
6	桜図	昭和 5 (1930)	紙本墨画淡彩
7	紫陽花図	昭和 5 (1930)	紙本墨画淡彩
8	虎図	制作年不詳	絹本着色
9	孔雀図	制作年不詳	紙本墨画淡彩
10	布袋図	制作年不詳	紙本墨画
11	松に鶴図	制作年不詳	絹本墨画淡彩
12	鮎図	制作年不詳	紙本墨画淡彩
13	色紙 婦人図	制作年不詳	紙本墨画淡彩
14	スケッチブック	大正時代	
15	愛用の画材		



「風景 (琴路岳)」大正 14 (1925)